

公文書館第10回企画展

「相模原における鉄道の開通と発展」の開催について

日本の鉄道は、明治時代に近代化のシンボルとして誕生し、平成の現在に至るまで発達してきました。

明治維新から150年を迎えるこの時期に、相模原に開通した鉄道線や開業した鉄道駅の歴史に関する公文書等を展示します。

- 1 開催場所** 相模原市立公文書館
(緑区久保沢1丁目3番1号 城山総合事務所第2別館3階)
- 2 開催期間** 平成29年10月6日(金)～12月28日(木)
毎週月曜日(10月9日を除く)、毎月第3水曜日、10月10日(火)は休館日です。
- 3 開催時間** 午前8時45分～午後5時00分
- 4 テーマ** 「相模原における鉄道の開通と発展」



日本の鉄道の始まり

日本では、明治時代に入り、1872(明治5)年に新橋駅－横浜駅間で官設官営方式による鉄道が開通すると、全国各地で鉄道の営業が開始されました。

1892(明治25)年には、国鉄の整備予定路線を定めた「鉄道敷設法」が公布され、国の体系的な鉄道整備が始まりました。

また、1906(明治39)年に鉄道国有法が公布され、鉄道の原則国有化が定められ、国有鉄道主導による輸送体系が確立されることになりました。1949(昭和24)年には、公共企業体「日本国有鉄道」となり、1987(昭和62)年に分割民営化されるまで存続しました。

相模原市域における鉄道の開通と発展

JR線では、1901(明治34)年に中央東線(現JR中央本線)の八王子駅－上野原駅間が開通すると、与瀬(現相模湖)駅が開業し、現在の相模原市域では初の鉄道駅となりました。

1908(明治41)年には横浜鉄道株式会社により、東神奈川駅－八王子駅間に鉄道(現JR横浜線)が開通し、淵野辺駅、橋本駅が開業しました。

また、1921(大正10)年に相模鉄道株式会社により、茅ヶ崎駅－寒川駅間で開通した鉄道(現JR相模線)は、1931(昭和6)年に全線が開通し、座間新戸(現相武台下)・下溝・原当麻・上溝(現番田)・相模横山(現上溝)・作ノ口(のちに廃止)・橋本の各駅が開業しました。

私鉄線では、1927(昭和2)年に小田原急行鉄道(現小田急電鉄)株式会社により、新宿駅－小田原駅間で小田原線、1929(昭和4)年に同社により、大野信号所－片瀬江ノ島駅間で江ノ島線がそれぞれ開通し、同年東林間都市(現東林間)駅が開業、1941(昭和16)年には、相模原(現小田急相模原)・通信学校(現相模大野)の各駅が開業しました。

また、京王電気軌道(現京王電鉄)株式会社により、1915(大正4)年に新宿駅－調布駅間で鉄道(現京王線)が開通し、51年後の1966(昭和41)年には相模原線の建設が始まり、1990(平成2)年、南大沢駅－橋本駅間が開通、橋本駅が開業しました。

鉄道の開通と発展に伴い、本市は人口が急増し、昭和50年3月には「子ども急増びんぼう白書」を発行しました。

また、2027年には、リニア中央新幹線神奈川県駅が本市に設置されることになっています。

[参考文献:「相模原市内の鉄道－鉄道関係資料集－」(平成4年3月 相模原市都市計画部 都市交通計画課)]



相模原市立公文書館

〒252-5192

相模原市緑区久保沢1丁目3番1号

城山総合事務所第2別館3階

電話 042-783-8053



交通のご案内

橋本駅北口からは「橋 01 三ヶ木」行き、南口からは「橋 08 若葉台住宅」行きのバスが多く出ています。三ヶ木方面からは橋本駅行きバスを利用、「城山総合事務所入口」で下車、徒歩3分